

て板を張り紙りの色をまき。完漆食ふて塗固め矢使間へ聞るやう
身へて敵ある縛ひがふ。備後別から織田信長遣遣木下が軍
功と賞めし其要涯と見ゆ物せむと五千余騎出馬一里。閑役城小
趣きかく木下もと所より人數を以て諸次の程二里をうど難を當
されし自身の城門外小布草を。御近小牛て歸傍ちる。信長賤と御近
あり馬と驥乎と逃却。木下が子と捉て。木下が子と當日
令船の功小豆て。實小豆と謂つて。一月をと賞するとも程を。予今日
檢收當國小馬と事と。全く汝が勢うと死も難い。宣ふ事。為言
ひ。傳して。身の勿体うれ御經小屋。徳忠の縫小屋請の不作の。更にとも
君御威光をんば。のぞう士お精して粉骨碎身つまらん。主軍士倅の
申小就く。輝次が稻田日付野。青山。加治田。松原。方どり。武士の方又不當の
英雄小て。遺遣の戦忠大。小候。加之今川攻少。じり加勢と申立。自軍の
氣と祥しよう。收率當國の御出馬。も。渠は何んが方便か。よ。
自軍の毫難を救ひ。蒙かて君の忠勤院。小こ遭難。たとえが昇べ。此輩
らも。恰御前へ召さ。御賞を。も。しも。うと。此より。宴か。至極と。
頃ふと織田どの聞こ。彼が軍の頃て。忠筋の者と。喧び。従遣
の對面も。おりて。渡御も。宣ひ。御殿城。小へ。を。ひ。御。も。小巡覽
ま。身。脩も。防禦は無備。嚴重かと感。嘗て。ひ。安度。も。あ。機會。木下秀
吉。某事方北軍。收率。也。御部が。勝力。と。喬忠の。肩力。と。謂。也。快。も。所知
已。も。か。。然。中。遠。遣。の。當。城。修。理。の。船。うち。數。度。の。勲。功。を。ま。の。も。あ。ら。也。御。殿。計
釐。化。し。小。橋。の。具。を。用。て。修。繕。教。友。敵。挫。し。象。と。双。の。忠。義。と。謂。づ。し。今。す。